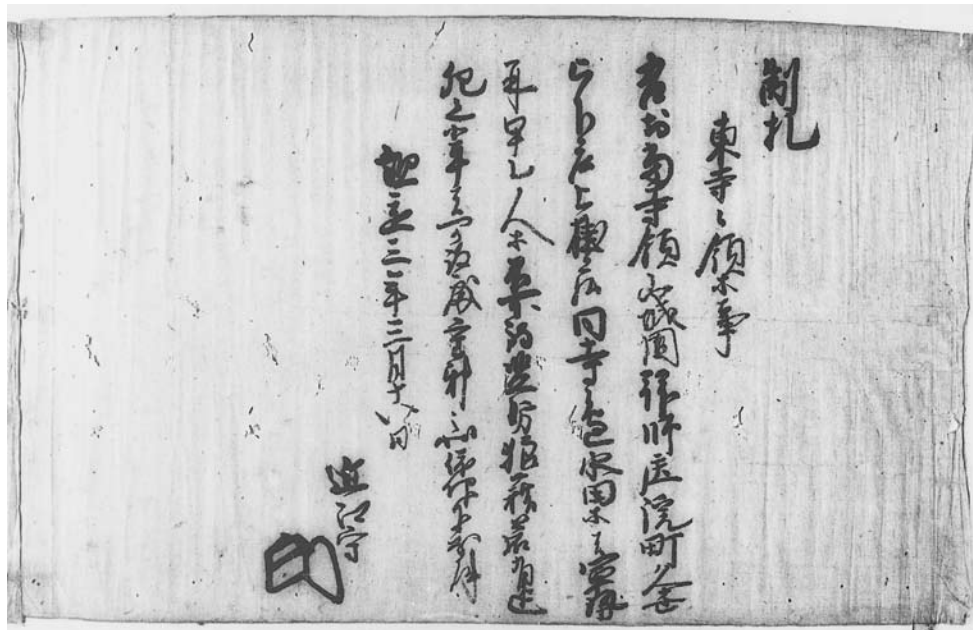




総合資料館だより

2010.10.1 No.165

南北朝内乱の一齣を切り取った古文書



観応^{かんのおう}3（1352）年3月18日、足利義詮の武将である佐々木（京極）秀綱が山城国^{はいのしのしょう}押師荘（現京都市南区）など京都近郊の東寺領荘園に対して自軍の濫妨狼藉を禁止した命令書です。

前年の観応2年10月24日、足利尊氏・義詮父子は不和となった足利直義（尊氏実弟）を討つために、背後の憂いを断つ目的で南朝に降参します。これにともなって11月7日、北朝は廃され、両朝は一つになります。年号においても「観応」が「正平」^{しょうへい}に呼び替えられました（正平一統）。

しかし、この正平の一統は長くは続きませんでした。翌正平7年（＝観応3年）、南朝の後村上天皇が、八幡臨幸を口実にして、京都占領を目的に、吉野から軍事行動を起こし、閏2月19日に男山八幡に本陣を置いたからです。

京都に残っていた義詮は、閏2月20日に近江国に逃れ、早くも閏2月23日には正平の年号を棄て、もとの観応の年号で近江の武士に軍勢^{せいそくじょう}催促状を出して軍勢を整えました。3月15日、反転した義詮は南朝軍を破り、京都を奪回。そして3月21日に、男山に陣する南朝軍に総攻撃を懸けることとなります。それを前に洛南から西岡一帯にかけて展開し、駐屯している幕府軍に発したのがこの文書です。

なお、この古文書は国宝の東寺百合文書^{とうじひやくごうもんじょ}の中の一通で、当館が編集し、10月に活字化され刊行される『東寺百合文書 八』（思文閣出版）に収録されています。

目次	南北朝内乱の一齣を切り取った古文書.....	1
	文献課の窓から『「都」と「日出」～戦後京都の夕刊紙～』.....	2
	歴史資料課の窓から「行政文書に見る京都 建物疎開関係資料について－京都のイメージのために－」...	4
	展覧会等のお知らせ.....	6
	最近の収集資料から（平成22年6月～8月）.....	7
	全史料協 全国（京都）大会 平成22年度古文書入門教室へのお誘い.....	9
	友の会事務局から 日誌 利用案内.....	10

「都」と「日出」 ～戦後京都の夕刊紙～

戦後の京都に存在していた新聞に『都新聞』と『京都日出新聞』があります。この二つの新聞については、同名で別の期間に発行されていた新聞も存在するため、混乱しがちです。今回は、夕刊紙として京都の庶民に親しまれた『都新聞』と『京都日出新聞』についてご紹介します。

(1) 『都新聞』

『都新聞』は昭和21(1946)年6月1日に都新聞社より創刊されました。創刊時の所在地は「中京区河原町三條上ル」ですが、昭和27年10月8日に「中京区烏丸御池東入ル」に社屋を移転しています。『京都年鑑』(1953年版)によると移転の理由は、数回にわたる増資を行い、社屋を新設し、印刷施設を整備したためとされています。また、『日本新聞年鑑』(1954年版)によると、『都新聞』の発行部数は85,120部を数えます。昭和30年4月25日には朝刊紙も発行し、名実ともに京都における新聞界での地位を高めてきました。

創刊当初は2面構成で、社会・文化についての記事が主でした。その後4面構成となり、占いやスポーツ、テレビ・ラジオの番組欄などが加わり、第4面には映画や舞台の情報が掲載されるなど、より大衆向けの紙面へと変化していきましたが、この『都新聞』は昭和31年2月13日を最後に突然その姿を消してしまいます。昭和31年2月15日の『夕刊京都』によると、「都新聞のスト続く」とあり、「都新聞労組では、かねて未払賃金よこせと会社側と交渉をつづけていたが決裂、13日から無期限ストに突入。14日正午現在なおストが続けられている」と書かれています。また、創刊から約10年の間に社長の交代が相次ぎ、会社の経営が不安定だったことをうかがわせます。

およそ9ヶ月後の昭和31年11月21日、『都新聞』は夕刊紙として「復刊」します。復刊当日の紙面で、社長の谷口礼二郎は、「余儀なき事情のため休刊していたが、社名を『みやこ新聞社』と変更して、復刊を期に新たな気持ちでスタートする」との思いを述べています。その思いは紙面にも見ることができます。谷口は京都産業新聞社の社長をしており、『京都産業新聞』を発行し

ていましたが、みやこ新聞社の社長に就いたことにより、『京都産業新聞』を廃刊統合し、『都新聞』を復刊しました。谷口と京都産業界との関係は強く、復刊後の『都新聞』の紙面は今までの社会・文化欄に加え、染織業界をはじめとする京都産業界に関する記事も見られるようになりました。



(『都新聞』復刊第1号 昭和31年11月21日)

また、紙面の広告欄からも復刊への熱い思いが伝わってきます。多くの企業が「祝復刊」の広告を掲載し、復刊後1ヶ月経っても途絶えることはなく、『都新聞』の復刊に対する府民の思いを感じ取ることができます。そんな波乱に満ちた『都新聞』ですが、当館で『都新聞』の現物を確認できるのは昭和32年8月6日までで、その後いつ廃刊となったかは現在のところ分かっていません。

ちなみに、『東京新聞』の前身で明治21年から昭和17年まで東京で発行されていた新聞に『都新聞』(明治22年1月31日まで『みやこ新聞』)がありますが、今回とりあげた『都新聞』とは別の新聞です。発行所も「都新聞社」と全く同じで混同しがちですので注意が必要です。

(2) 『京都日出新聞』

『都新聞』のあとを引き継ぐような形で京都の新聞界に登場したのが『京都日出新聞』です。最初に注意しておきたいのは、この『京都日出新聞』は京都新聞の前身である『京都日出新聞』とは別の新聞だということです。今回とりあげる『京都日出新聞』は京都日出新聞社より発行され、創刊は昭和33年11月3日の文化の日です。当時の社長は山口繁太郎で、夕刊京都新聞社の創立者のひとりでもありました。また、京都日出新聞本社の所在地は、中京区三条通柳馬場東入ル

とあり、当時の住宅地図でも確認することができます。



(『京都日出新聞』創刊号 昭和33年11月3日)

『京都日出新聞』の創刊号の第1面トップ記事には棟方志功による「祝京都日出新聞」の挿絵が掲載されています。棟方志功は青森県出身の画家・版画家で、京都日出新聞社の役員としてもその名を連ねています。一方、山口繁太郎も同じく青森県の出身で、左京区北白川で山口書店を経営していました。山口と棟方は同郷のよしみからか、家族ぐるみの付き合いがあったようで、棟方は自身の著作である『板散華』の初版を、昭和17年に山口書店から刊行しています。山口書店は現在も左京区一乗寺で出版業を営んでいます。

『京都日出新聞』は4面構成で、『都新聞』と同様に第4面に映画・舞台の情報を掲載しています。『京都日出新聞』の映画欄の特徴は、俳優の紹介やインタビュー記事を載せていることで、映画の情報は国内だけでなく海外の作品まで幅

広くとりあげています。

「明るく楽しく」「信頼され愛される新聞」をモットーに発行され、観光京都美人人気投票(黒い瞳の女王選定)を行ったりしていますが、育児・衛生・教養・美容・暮らしの工夫など、社会問題だけでなく文化に重点を置いた紙面構成をとり、『京都日出新聞』は主婦のよき友でもあったことをうかがわせます。また、同社世論調査(昭和34年5月3日現在)によると、発行は京都府内にとどまらず、滋賀・大阪を含め、計45,000部を数えます。当時の『京都新聞』の発行部数が朝刊225,705部、夕刊220,433部でしたので、これに次ぐ規模の新聞であったことが分かります。

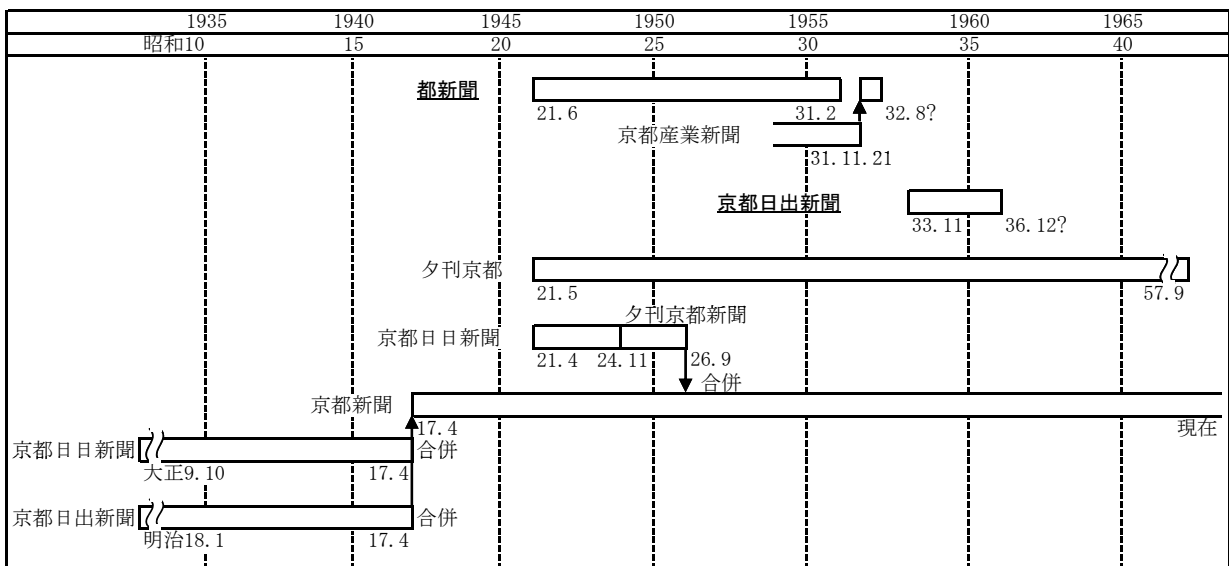
当館では、創刊号から昭和36年12月30日まで『京都日出新聞』の現物を確認できますが、いつ廃刊となったかは現在のところ分かっていません。

以上のように今回は、戦後の京都に存在した『都新聞』と『京都日出新聞』についてとりあげました。これらの新聞がいかに京都の庶民に親しまれていたかは、実際に手に取れば感じることができます。

<参考資料>

- ・『躍進する京都日出新聞』京都日出新聞社編刊 1959
- ・『京都新聞120年史』京都新聞社編刊 1999
- ・『京都書肆変遷史』京都書肆変遷史編纂委員会編 京都府書店商業組合刊 1994 ほか
(文献課 大瀧徹也)

<戦前戦後の京都における新聞一覧>



行政文書に見る京都

建物疎開関係資料について—京都のイメージのために—

はじめに

今回は、当館所蔵の京都府行政文書に含まれている「建物疎開関係資料」59点についての紹介と簡単な解説を行います。

この建物疎開事業は、昭和19（1944）年7月から昭和20年8月の敗戦まで4次にわたって行われました。約2万戸が対象となり、京都市内の人口も一年間で10万人ほど減少するという非常に大きなものでした。また、その結果として、市中心部を堀川通・御池通・五条通の大きな道路空間が取り囲む今の京都市街を作り出します。その他にも、府庁の周辺や高辻通りをはじめとする2車線の道路や、現在の先斗町公園などのいわゆる小空地が生まれる事になります。

資料の概要

次ページの表は、この建物疎開の際に、府が事務処理のために作成・取得した資料の一部です（以降、ID番号を（）で示します）。この事業は、都市防空の観点から強制的に建物の撤去範囲を定めた後、建物の買収と取り壊しは府、土地の貸借や買収については京都市など地元市町村が行う、という役割分担によって行われました。

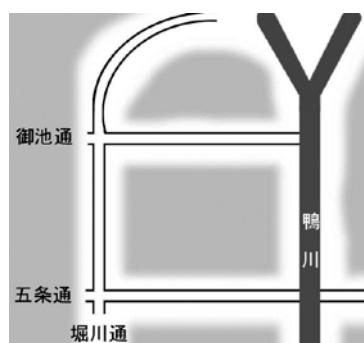
資料群は以下の4つの系統にわけられます。1.建物疎開の施策全体を行うための文書、2.対象建物を府が買収するための調査・支払い調書、3.対象建物に居住、または営業していた人々への転居料の支払いのための調査・支払い調書、4.それらを取りまとめた一覧表、です。

また、2～4は疎開事務所（＝警察署管区）単位にまとめられています。主に資料が残っているのは、堀川・中立売・松原・五条・七条・西陣の各疎開事務所の分です。

1.には、第1次に関する（47）、第2次に関する（56）、第3次に関する（52）、第4次に関する（50）などが該当します。たとえば、第3次建物疎開に関する資料には、地区の指定・事務体制の整備・実施にあたっての各種調整事項や国・市町村とのやりとりが綴られています。

ただし、当館が現在持っている資料からは、地区指定がどのような力学で行われたか、は判明しません。疎開地区の正式決定を行う都市疎開事業補償委員会の会議資料はありますが、そこからは、なぜこの建物を取り壊すのか、とい

う点はうかがい知ることはできません。特に、以下の図のように市街地を分断する形で大規模な疎開を行った第3次疎開については、防火帯をつくるため、という事務担当者の証言や戦争以前の都市計画との関係が指摘されているものの、現在のところ地区指定に直接関係する資料は発見できていません。



▲京都市街地を分断する疎開地帯

2.には、（28）（37）などが該当します。現地を実際に調査したかまでは不明ですが、地区によっては各戸の位置が書き込まれた詳細な図と連名簿がセットになって残されている場合も多くあります。これらの事務については、第1次・第2次については取り壊し以前に処理が済んでいたようですが、第3次・第4次についてはその多くが事後処理とされていたようで、戦後長く補償交渉が行われる事例も多数あります。当時の法体系に沿った形で財産権を尊重する合法的な仕組みを設定しながらも、一種の超法規的な措置が行われたのです。

3.には、（26）（30）（31）などが該当します。転居料の支払いや営業補償には、家族構成や職業状況の把握が必要になるため、家屋とは別に調査を行い、支払いを行いました。

4.には、（12）（38）などが該当します。この総括表は多くがB4版の横長の綴じとなっており、各戸につけられた番号順に、買収費・補償費などが記載されています。

また、これらの資料は、（52）に含まれる「疎開事務残務整理について」（昭和22年1月17日）によると、昭和22年1月～2月にまとめられたことが判明します。疎開地区ごとに契約書・移転費交付申請書・営業補償費交付申請書等の書類をまとめ、調査番号順に綴り、総括表が不備だっ

建物疎開関係資料一覧

ID	簿冊番号	簿冊名
1	昭19-0109	疎開建物除却工事並庁内疎開其他一件綴
2	昭19-0116	第3次建物疎開
3	昭19-0117	第3次建物疎開
4	昭20-0108-001	第3次建物疎開
5	昭20-0108-002	第3次建物疎開（中立売）
6	昭20-0108-003	第3次建物疎開（中立売）
7	昭20-0108-004	第3次建物疎開（中立売）
8	昭20-0109-001	第4次建物疎開（中立売）
9	昭20-0109-002	第4次建物疎開（中立売）
10	昭20-0110-001	第3次建物疎開
11	昭20-0110-002	第3次建物疎開（西陣）
12	昭20-0110-003	第3次建物疎開（西陣）
13	昭20-0111-001	第4次建物疎開（西陣）
14	昭20-0111-002	第4次建物疎開（西陣）
15	昭20-0111-003	第4次建物疎開（西陣）
16	昭20-0112-001	第3次建物疎開
17	昭20-0112-002	第3次建物疎開（松原）
18	昭20-0112-003	第3次建物疎開（松原）
19	昭20-0113-001	第4次建物疎開（松原）
20	昭20-0113-002	第4次建物疎開（松原）
21	昭20-0114-001	第3次建物疎開
22	昭20-0114-002	第3次建物疎開（堀川）
23	昭20-0114-003	第3次建物疎開（堀川）
24	昭20-0114-004	第3次建物疎開（堀川）
25	昭20-0114-005	第3次建物疎開（堀川）
26	昭20-0115-001	第4次建物疎開（堀川）
27	昭20-0115-002	第4次建物疎開（堀川）
28	昭20-0115-003	第4次建物疎開（堀川）
29	昭20-0115-004	第4次建物疎開（堀川）
30	昭20-0115-005	第4次建物疎開（堀川）
31	昭20-0115-006	第4次建物疎開（堀川）
32	昭20-0115-007	第4次建物疎開（堀川）
33	昭20-0116-001	第3次建物疎開
34	昭20-0116-002	第3次建物疎開（五条）
35	昭20-0117-001	第4次建物疎開（五条）
36	昭20-0117-002	第4次建物疎開（五条）
37	昭20-0118-001	第3次建物疎開
38	昭20-0118-002	第3次建物疎開（七条）
39	昭20-0118-003	第3次建物疎開（七条）
40	昭20-0119	第4次建物疎開（七条）
41	昭20-0120	第3・第4次建物疎開
42	昭20-0121	第4次建物疎開（川端）
43	昭20-0122	第4次建物疎開
44	昭20-0123	第3・第4次建物疎開
45	昭20-0124	第3次建物疎開
46	昭20-0125	第2次建物疎開一件
47	昭20-0126	第1次建物疎開関係綴総括表
48	昭20-0127	第1次建物疎開
49	昭20-0128	第3次建物疎開
50	昭20-0129	建物疎開一件
51	昭20-0130	第1次建物疎開登記関係綴
52	昭20-0131	第3次建物疎開事業関係書類綴
53	昭20-0132	第4次建物疎開
54	昭20-0133	第4次建物疎開
55	昭20-0134	建物疎開
56	昭20-0135	第2次建物疎開事業関係綴
57	昭20-0136	第3次建物疎開
58	昭20-0137	第3次建物疎開契約書及支拂調書
59	昭20-0138	第1次建物疎開総括表

※表題と内容が異なる場合がある

※修理中のため閲覧できない資料を含む

※個人情報の保護のため閲覧制限のある資料もある

たり汚れているものは書き換えて整理し、会計課の支払い調書とこの総括表を突き合わせる作業が行われているようです。つまり、この資料群は作成時のままの姿ではなく、この昭和22年1月時点の整理で現状に近い形になったと見るべきでしょう。

これら、2～4の資料を有効に組み合わせる事によって、当時の京都市街を一部ではあるが復元することが可能になります。破損などによって資料すべてをすぐに閲覧していただくことは難しいですが、京都の都市研究にとって欠かすことのできない資料群となるでしょう。

また、建物疎開と直接は関係ない資料として、(1)があります。この資料は、府庁周辺の民間建築物を疎開させたあとに、防空壕を多数建築しようとしたものであり、多くは実際に完成していたようです。

なお、この資料群については、平成21（2009）年度から開始された「重要文化財京都府行政文書修理事業」で重点的に保存・複製化の処置を行っています。紙の素材に酸化等の不安があることと、簿冊の綴じが悪く利用に差し支えが生じているための緊急措置です。

おわりに

当時の大都市で大規模な建物疎開を行い、空襲に遭わないまま敗戦を迎えた所は希です。その意味で、京都のこの体験は貴重なものといえるでしょう。また、それを各戸単位で裏付ける事ができる資料がまとまって残されている事例もほとんどありません。

この資料群は、敗戦直前の京都を知るため、また戦後の京都の空間形成を考える上で、基礎的な資料群と言えます。今後は、資料群の保全と一層の利用促進に努めたいと考えています。

また、今回は概略の紹介にとどめたので、詳細については稿をあらためて論じたいと考えています。

【参考文献】

- 入山洋子2002「京都における建物強制疎開について」（『京都市政史編さん通信』12）
 川口朋子2007「京都における広域建物疎開の実態」（『人間・環境学』16）
 川口朋子2009「戦時下東京・京都における建物疎開執行体制」（『人間・環境学』18）
 （歴史資料課・行政文書担当 福島幸宏）

展覧会、講演会、シンポジウムのご案内

11月1日は、平成20年度に「源氏物語千年紀」を推進した古典の日推進委員会が提唱する「古典の日」です。

当館では、源氏物語や平家物語をはじめ、中国・朝鮮で出版されたものなど大変貴重な古典籍約7万冊を所蔵し、閲覧に供しているところです。

また、これらの貴重な古典籍について、その魅力や奥深さを理解していただくことを目的に、京都新聞社、京都府立大学と連携して新聞連載事業（18・19年度「古典籍をあじわう」、20・21年度「古典籍へようこそ」、22年度「遊びをせんとや：継続中」）にも取り組んでいるところです。

この機会に、日頃、目にしていただく機会の少ない古典籍にスポットをあて、現物に触れる場としての展覧会やシンポジウム、講演会を開催し、古典籍の世界の魅力に迫ります。

是非、ご来場下さい。

◇展覧会

会 期 平成22年10月30日（土）～11月28日（日）

＜休館日：11月3日（祝）、11月10日（第2水）、11月23日（祝）＞

テーマ 「古典籍へようこそ－京都新聞連載の古典籍と細川幽斎の文芸－」

概 要 京都新聞連載事業で紹介した古典籍をはじめ、歌人としても活躍した戦国武将・細川幽斎（藤孝：没後400年）関連資料を中心に展示（約60点）し、現物を見ることで古典の持つ奥深さ、面白さを体感する。

主 催 京都府立総合資料館、京都府立大学、京都新聞社

◇講演会

テーマ （仮称）細川幽斎・忠興とガラシャ

講 師 田端泰子氏（京都橘大学文学部教授）

日 時 平成22年11月11日（木）午後2時～午後4時

場 所 総合資料館 4階講堂

定員等 200名（先着順、申込み不要）、参加無料

主 催 京都府立総合資料館

◇シンポジウム

テーマ 古典にまなび、古典にあそぶ

－『古典籍へようこそ－京都府立総合資料館の書庫から－』出版を記念して－

日 時 平成22年11月14日（日）午後1時30分から4時30分

内 容 京都新聞連載事業「古典籍をあじわう」「古典籍へようこそ」で紹介した文献を中心に執筆者等が読み方、味わい方などを報告し、広く府民等と古典を学ぶ楽しさや古典世界の面白さを学ぶ

◇シンポジスト

京都府立大学 赤瀬信吾教授、母利司朗教授、小松謙教授、
藤原英城教授、林香奈准教授

総合資料館 藤原直幸主事

場 所 京都府立大学学生会館 2階多目的ホール

定員等 180名（先着順、申込み不要）、参加無料

主 催 京都府立総合資料館、京都府立大学、京都新聞社



最近の収集資料から（平成22年6月～8月）



◆図書資料

<京都>

京都古社寺辞典 吉川弘文館編刊 2010
13,385,55p

稲荷大神 お稲荷さんの起源と信仰のすべて
中村陽監修 戎光祥出版 2009 175p

紫野大徳寺の歴史と文化 竹貫元勝著 淡交社
2010 307,10p

京都市都市計画地図集 平成22年版 ジンブン
21編刊 2010 42p 4,62枚

ふるさと山家の今昔写真 第3巻 私たちの時
代 山家今昔写真の会編刊 2010 227p 寄贈

京丹後市久美浜湾の古環境と形成過程 阿蘇
海・天橋立との比較 植村善博編 京丹後市教
育委員会 2010 143p

秘蔵写真京の御所と離宮 京都の五大皇室建築
美 渡辺誠著 講談社 2010 127p

京都ねこ街案内 中田桃子文 TOKIMEKIパブ
リッシング 2010 143p

京たけのこが教えてくれた 放置竹林の喜怒哀
楽 杉谷保憲著 京都新聞出版センター
2010 241p

京都彫刻家協会 創立40周年記念誌 京都彫刻
家協会[編]刊 2010 152p 寄贈

京都辻留季節の煮物椀 平晴彦著 淡交社
2010 175p 寄贈

童心 違いを認めあい共に生きる 2010年記
念誌 マイブック社編 京都童心の会[編]刊
2010 60p 寄贈

<人文>

出版年鑑 2010-1, 2 出版年鑑編集部編 出版
ニュース社 2010 2冊

新規開業白書 2010年版 日本政策金融公庫総
合研究所編 中小企業リサーチセンター 2010
6, 255p

日本労働年鑑 第80集（2010年版） 法政大学
大原社会問題研究所編著 旬報社 2010 479p

情報検索の歴史 日本語処理を乗り越えて 緒
方良彦著 日外アソシエーツ 2010 20, 145p
（日外選書Fontana）

図書館ハンドブック 第6版補訂版 日本図書館
協会編刊 2010 17, 673p

著作権関係法令集 平成22年版 著作権法令研
究会編 著作権情報センター 2010 504, 187p

雑誌新聞総かたろぐ 2010年版 メディア・リ
サーチ・センター株式会社編刊 2010 2093p

図書館に関する基礎資料 平成21年度 文部科
学省国立教育政策研究所社会教育実践研究セン
ター[編]刊 2010 458p 寄贈

和刻本漢籍分類目録 増補補正版 長澤規矩也
著 汲古書院 2006 24, 360p 寄贈

神陵文庫 神陵文庫紅萌抄 合本9 三高自昭
会編刊 2010 47, 139p 寄贈

日本古代神祇制度の形成と展開 三橋正著 法
藏館 2010 20,563,18p

法名で引く忌日索引 中世僧侶・在家者 田辺
久子編 青史出版 2006 474p

日本密教人物事典 醍醐僧伝探訪 上巻 柴田
賢龍著 国書刊行会 2010 31,460,65p 寄贈

本願寺教団史料 京都・滋賀編 本願寺史料研究所編 本願寺出版社 2010 3,5483p 寄贈

平城宮木簡 7 (図版)・(解説) 奈良文化財研究所編刊 2010 2冊 (奈良文化財研究所史料第35冊・同別冊) 寄贈

令義解の受容と研究 荊木美行著 汲古書院 2010 2,336,4p

お雇い外国人の研究 上巻 梅溪昇著 青史出版 2010 8,513,2p

公家事典 橋本政宣編 吉川弘文館 2010 11,1051,38p

複合的表現 絵画からの展開 武蔵野美術大学油絵学科研究室編 武蔵野美術大学出版局 2005 104p

戦後フランス映画ポスターの世界 東京国立近代美術館フィルムセンター編刊 2010 77p 寄贈

日本の美術館名品展 美連協25周年記念 東京都美術館編 美術館連絡協議会 2009 309p 寄贈

肖像の100年 ルノワール、モディリアーニ、ピカソ、ルノワール ポーラ美術振興財団 ポーラ美術館編刊 2009 145p 寄贈

海を渡る日本現代美術 欧米における展覧会史 1945~95 光山清子著 勁草書房 2009 65p

藤田嗣治の絵画技法に迫る:修復現場からの報告 木島隆康編 東京藝術大学出版会 2010 145p

浜口陽三展 生誕百年記念 和歌山県立近代美術館編刊 2009 239p 寄贈

国立能楽堂コレクション展 能の雅 (エレガンス) 狂言の妙 (エスプリ) 田邊三郎助監修 NHKプロモーション 2010 218,5p 寄贈

能楽史年表 近世編下巻 鈴木正人編 東京堂出版 2010 24, 614p

シルクロード美術展カタログ内容総覧 松平美和子編 芙蓉書房出版 2009 262p

<官庁>

政府開発援助 (ODA) 国別データブック 2009 外務省国際協力局編刊 2010 13, 1161p 寄贈

住宅・土地統計調査報告 平成20年 総務省統計局編刊 2010 49冊

病院経営実態調査報告 平成21年 全国公私立病院連盟著 全国公私立病院連盟 日本病院会 2010 783p

[京都府統計研究会関係写真帳] [京都府統計研究会編刊] [1931-1939] 1冊

京都府の勤労統計 毎月勤労統計調査地方調査・特別調査結果 平成20年 京都府政策企画部調査統計課[編]刊 2010 105p

維持管理年報 桂川右岸流域下水道・木津川流域下水道・宮津湾流域下水道・桂川中流流域下水道・木津川上流流域下水道 平成20年度 京都府流域下水道事務所[編]刊 [2009] 302p

宇治田原町統計書 平成21年版 宇治田原町役場財政課編刊 2010 67p 寄贈

綾部市の工業 工業統計調査結果報告書 平成20年 綾部市総務部総務課編 綾部市 2010 17p 寄贈

京都市建築行政50年のあゆみ 京都市都市計画局建築指導部建築指導課編刊 2009 125p 寄贈

「福知山市資源有効利用促進事業」調査報告書 福知山市資源有効利用促進事業調査研究部会[編] 福知山市企画環境部環境推進室 2010 31p 寄贈

全史料協 全国（京都）大会

全史料協とは「全国歴史資料保存利用機関連絡協議会」の略称で、記録資料を保存し利用に供する機関やそれに関わる個人で構成されている団体です。

全史料協では資料の保存利用について様々な研究や協議を行っており、その活動のひとつとして、年に一度全国大会を開催しています。

今年の京都大会では、より多くの方に資料保存について身近に感じていただこうと、公開事業を実施することになりました。ここでは、事前申込不要の公開事業についてご紹介します。

全史料協全国（京都）大会開催日時・場所

- ・期日 平成22年11月24日（水曜日）・11月25日（木曜日）
- ・会場 京都府民総合交流プラザ 京都テルサ

参加費無料・事前申込不要の3つの公開事業

- ・11月24日 12:10～14:10 ポスターセッション
- ・11月24日 12:10～14:10 資料保存ワークショップ
- ・11月24日 14:10～15:10 記念講演「国宝 東寺百合文書の魅力」

お問い合わせ先

京都府立総合資料館 歴史資料課

住所 〒606-0823 京都市左京区下鴨半木町1-4

TEL. 075-723-4834 FAX. 075-791-9466

メールアドレス：shiryokan-rekishi@pref.kyoto.lg.jp

○全国歴史資料保存利用機関連絡協議会（全史料協）公式サイト <http://www.jsai.jp/>



平成22年度 古文書入門教室への誘い

平成21年度から開催しております「古文書入門教室」では、初心者の方を対象に、古文書に接する心構えなどの講義と簡単な資料の解説を行います。皆様のご参加をお待ちしています。

- ・日 程 平成22年11月30日（火）、12月1日（水）、12月2日（木）（3日間通しての連続講座です）
- ・講義時間 各日とも午後2時～午後4時
- ・講 師 大塚活美（総合資料館職員）
- ・会 場 京都府立総合資料館 2階会議室
- ・受講料 無料
- ・定 員 60名（先着順ではございません）
- ・申込受付期間 平成22年10月25日（月曜日）～11月9日（火曜日）[当日消印有効]
- ・お申込み方法

往復はがきに住所、氏名（ふりがな）、電話番号をご記入の上、受付期間中に下記までご応募ください。なお、往復はがき以外でのお申し込みは受け付けておりません。

応募多数の場合は、抽選により受講者を決定いたします。

受講の可否は、申込者全員に往復はがきの返信にてお知らせいたします。

- ・お申込み・お問い合わせ先

〒606-0823 京都市左京区下鴨半木町1-4

京都府立総合資料館 歴史資料課「古文書入門教室」係

TEL. 075-723-4834

◎お知らせ

10月13日(水)までの間、資料整理のため、臨時休館しております。
ご利用の皆様にはご迷惑をお掛けしますが、ご了承のほどをお願いします。

友の会事務局から

今年度の現地見学会を、下記のとおり予定しておりますので、お知らせします。

・実施日 10月27日(水)、29日(金)

・見学施設、内容

○奈良国立博物館

(第62回正倉院展、常設展等)

○海龍王寺

(法話、重要文化財特別等の公開等)

○靈山寺

(法話、本尊の秘仏等の特別公開等)

集合時間等詳細につきましては、後日ご連絡いたします。

古文書相談のご案内

○古文書の内容や解説についての相談

郵送による事前申込。申込方法の詳細については、次へお問い合わせください。

問合せ先：当館歴史資料課 TEL 075-723-4834

日誌(平成22年6月～8月)

6.14(月)～18(金)

府庁2号館に「明治の京都府」展示

6.30(水) 府民講座「総合資料館・京都府立大学共同研究(近世部門)論文集刊行記念講演」

7.24(土)～8.22(日)

企画展「語り継がれる幕末・維新の京都」

7.29(木)、8.12(木)

企画展列品解説

8.4(水) 府民講座(企画展関連)

8.17(火) 府民講座(企画展関連)

8.19(木) 寺子屋講座「学ぼう!京野菜・京の健康食」

利用案内

休館日 祝日法に規定する休日、
毎月第2水曜日、資料整理期、
年末年始(12月28日～1月4日)

[10月～12月の休館日]

10月1日～13日(資料整理)

11月3日(水・祝)、10日(水)、23日(火・祝)

12月8日(水)、23日(木・祝)、

28日～31日(年末)

開館時間 午前9時～午後4時30分

交通 京都市営地下鉄烏丸線・北山駅下車
市バス④、⑧・北山駅下車
京都バス④⑤、④⑥・前萩町下車

ホームページ <http://www.pref.kyoto.jp/shiryokan/>

○メールマガジン登録はこちらのアドレスから
<http://www.pref.kyoto.jp/shiryokan/maga.html>

発行 京都府立総合資料館

〒606-0823 京都市左京区下鴨半木町1-5

京都府立総合資料館友の会(振替 01030-2-11991) TEL. 075-723-4831 FAX. 075-791-9466

○本誌に対するご意見・ご感想などを当館庶務課までお寄せください。

再生紙を使用しています。